

### イニシエーションスピーチ



滝澤 祐也君 (KOUYOU建設株)

**【導入】** 私は普段、人前で講話をするような立場の人間ではありません。むしろ学生時代は勉強が得意ではなく、優等生コースとは全く違う道を歩んできました。皆様の中には「中学校卒業で社会に出た人がRCで講話しているのは珍しいな」と思われる方もいるかもしれません。ただ振り返ってみると、勉強は苦手でも経験だけは人よりしてきた人生だったと思います。

昭和61年10月生まれ。物心ついた時には平成でした！祖父、祖母、父、母、2歳年下の妹と幼少期を過ごしました。今は、お酒大好きな妻とそれぞれ春に大学に進学する18歳の長男、高校2年生の長女、また去年クリスマス会に参加させていただいた小学2年生の次男の、5人家族になります。

**【生い立ち】** 私の祖父はバスの運転手でした。バスで家に来ることがあり、バスに乗せてもらった事はいい思い出です。しかし私が5歳くらいの時、不慮の事故で寝たきりになり、その後亡くなっています。祖母はスーパーばあちゃん、当時小さな工場経営、祖父が他界後、廃業して家で内職をしながら私たち孫の面倒をよく見てくれました。御年85歳のスーパーばあちゃんは、今でも元気できています。父は運送業をしており、母はパート勤めの共働き家庭でした。

子供の頃の私はとにかく元気な子供でした。印象に残っているのは、祖父のバスや父のトラックによく乗せてもらったこと。大きな乗り物に乗るのがとにかく好きでした。小学生の頃、地域のお祭りで重機に乗れるイベントがありました。その時初めて重機に乗ったんです。ただ楽しかっただけなのですが、振り返ると、その体験が今の仕事につながっているのかもしれません。

小中時代は、サッカーや空手、スノーボードなど、とにかく体を動かす事が好きでした。社会に出るまで子供の頃の夢はとてもシンプルで、バスの運転手・トラックの運転手・バイクレーサー…、とにかく運転する仕事でした。ただ私は勉強があまり得意ではなく、中学校を卒業してすぐ働く事になります。周りの友人は

高校へ進学していきました。春休み・夏休み・冬休み…そういう話を聞くと少し羨ましいと思う事もありました。ただ小学生の頃から新聞配達をしていたこともあり、働くこと自体にはあまり不安はありませんでした。

**【現場の世界】** 最初に働いたのはガソリンスタンドですが、3か月ほどで辞め、叔父の土建屋で働くことになりました。朝5時から夜9時過ぎまで働く生活でした。正直かなり大変で、そこも3か月ほどで辞めてしまいます。

そして16歳のときに、東RC会員でもありましたワールド重機開発で解体の仕事に就きました。そこから約12年間、その会社で働くことになりました。

外仕事は本当に大変です。夏は暑く冬は寒く、雨の日も仕事です。若い頃は友人が遊んでいる時間に自分は仕事をしている。そんな生活でした。ただ、社長の生き様に憧れがありました。面倒見がよく物事の良し悪しをはっきり言う人でした。その社長から仕事の厳しさや責任、人との向き合い方を学びました。人は仕事からだけではなく、人から学ぶものが大きいという事を知りました。

**【人生の転機】** 28歳のとき、父と叔父から呼ばれました。「会社を作ったから一緒にやらないか」その言葉で人生が大きく変わります。それまで働いていた会社を辞め、会社を運営する側として働くことになりました。それまでは現場で「どう壊すか」「もう次の現場が詰まってる」などと考えていました。しかし会社を運営する立場になると「どう仕事を取るのか」「従業員を空かせない事」を考えるようになります。人のこと、お金のこと、仕事のこと、考えることが一気に増えました。その時に初めて経営の重さを感じました。

**【解体業という仕事】** 解体業というと「壊す仕事」というイメージがあります。確かに建物を壊します。しかしお客様からは「綺麗にしてくれて有難う」と言われる事が多い仕事です。建物を壊すということは次の未来を作る準備でもあります。壊してゼロにして、そこから新しいものが始まる。私はこの仕事に誇りを持っています。

**【社会活動】** 私は現在、青年会議所にも所属しています。正直、最初の印象は「少しヤバそうな団体だな」でした。ただ活動していく中で地域の課題に触れ、仲間と一緒に

